

# ほけんだより



平成 29 年 9 月 28 日  
八王子市立由井中学校  
校長 和田 薫  
養護教諭 吉澤 麻紀子 3 年生臨時号

## 3 学年 いのちの授業 を終えて☆☆☆

9 月 13 日（水）、可愛らしい赤ちゃんやその保護者の方、妊婦さん、助産師さん、そして地域の福祉施設の方々や保護者の方々をお迎えして、「いのちの授業」を行いました。感想の一部を紹介します。

- 妊婦体験をしてみて、かなりの重さで大変でした。女性はこんなに辛いのかと思うと、これからは女性に優しくしなければならないと思いました。（男子）
- 親が私を産むという選択をして、苦勞して生んでくれた命なので、辛いことがあっても、簡単に死んで逃げることは絶対にせず、自分を大切に生きていきます。（女子）
- あかちゃんを抱っこしたときに、手がずっとグーになっていて、その手で僕の指をつかんでもらった時、指があたたかかった。（男子）
- あんなに小さいのに、泣いたり笑ったりしてて、しっかり生きているんだな、と思った。（女子）
- 自分達が抱っこしたときは泣いていたのに、お母さんが抱っこした瞬間泣き止んでいて、「お母さんだ！」とわかるのはすごいと思った。（女子）
- あの重さを何ヶ月間もずっとかかえている妊婦さんはすごいと思った。（男子）
- 妊婦さんを見かけたら、助けてあげたい。（男子）
- 今まで赤ちゃんとふれ合うのが不安で怖かったけれど、実際は、親近感もわき、赤ちゃんが笑顔になると、自分も笑顔になってしまうくらい可愛かった。（男子）
- お母さんが私を「産む」と決めてくれたことに嬉しく感じた。感謝しようと思った。（女子）
- 最近、妹が生意気になってきてうっとうしくなっていたけど、赤ちゃんの純粋な笑顔を見て、「昔は妹もそうだったな」と心が温まった。（男子）
- 自分も生まれた時は赤ちゃんだったと考えると、親がどんなことを考えて、自分を見ていたのかを想像すると、とても嬉しい気持ちになった。（男子）
- 妊婦さんのお腹を触らせてもらう時、とても緊張した。（女子）
- 助産師さんが言っていた「性」について、これからしっかりと考えていかなければと思った。（男子）

- 私には 4 才の弟がいて、母が妊娠していた姿を今でも思い出すが、実際に自分でお腹の重さを体験したり、妊婦さんの話を聞いた時、母もこうだったんだと思うと、もっと手伝いをすればよかったと思った。(女子)
- 私は平均より重かったようなので、母は相当苦労したんだなと思った。改めて生んでくれてありがとう。こんな私ですが、ひとり立ちするまでよろしくお願いします。(女子)
- これからは、自分自身の考えや行動など、しっかり自分に向き合って生きていきたい。改めて、両親や支えてくれた人に感謝。(女子)
- 親に沢山迷惑をかけていたんだな、と思った。いつかしっかり感謝の気持ちを伝えたい。(男子)
- 受精卵の「ハート」は大切に持っておきたい。(女子)

## ☆☆☆つばやき☆☆☆

最初は緊張して、こわばった顔をしていたみんな。「積極的に関わってね」と言われても、どうやって関わってよいのかわからない・・・そんな空気が漂っていたけれど、赤ちゃんの力はみんなをあっという間に笑顔にしてくれましたね。自然とおもちゃで遊んであげたり、赤ちゃんの目線に合わせて笑ったり、妊婦さんのお腹を触らせてもらって「あ！動いた！」とラッキーな瞬間に立ち会えたり。そんなみんなの顔には優しい笑顔があふれていました。

受精卵（命のはじまり）は直径約0.1ミリ。紙に細い針で穴を開けたくらいの大きさです。その繊細で小さな「命」を、家族や、その周りの人たちが温かく大切に見守り、声をかけ、愛情込めてお腹をさすりながら育ててくれました。中には無事に育たなかった命や、誕生日が命日の命もあります。でも、今ここにいるみんなは、「力強い生命力」をもって、10ヶ月後に無事にこの世に生まれてきました。助産師さんは「赤ちゃんは、生まれる日も、生まれ方も、自分で決め、自分にとって一番ベストな方法で生まれてくる」ともおっしゃっていましたね。胎児だった時のみんなは、言葉も話せず、歩くこともできないけれど、お腹の中にいた時から、しっかりと「生きる力」や「自分の意思」を持っていたんだな、とも思います。

ちょうど今、自分の生き方（進路）を決めていく時期になりました。自分は将来どんな仕事をしたいのか。誰と付き合って、どんな人生を歩みたいのか。生きていく上で自分は何を大切にしていきたいのか、逆に絶対に譲れないことは何なのか。そんな中で葛藤したり悩んだり・・・そんなことも出てきますよね。

・・・でもそんな感じで、今も、そしてこれからも、人生はずーっと「選択」の連続。

そしてその一つ一つの行動や生き方は「自分が選択する」。

選択したからには責任をもつ。

大人になった私もまだ完璧ではない。まだまだ考えることや、試してみることが沢山ある。めげることもある。「選択」することに悩むのは大人も子供も関係ない。同じ人間として、「まかされた」自分の命をみつめ、ゴールを目指して日々生きていこうね。皆さんの書いた感想文はどれも温かく、ほっとさせてくれるようなものでした。今回の授業で、少しでも自分の中に「何かを思う優しい気持ち」が芽生えてくれたとしたら、とても嬉しいです。(養護教諭 吉澤)

